

## 5月7日（木）当社が提供するラジオ番組に ジャパンテック 小林部長 が出演

ジャパンテック株式会社は協栄産業グループの一員です。  
容器包装リサイクル法に基づき、家庭で分別され、それぞれの自治体を経て収集された使用済みPETボトルを適正処理し、高品質な再生PET原料を製造している「PETボトルリサイクルの専門会社」です。

ジャパンテックではPETボトルがどのようにリサイクルされるのか、その過程やリサイクルの仕組みを知ってもらうために、地域の学校や団体から、実に年間約2,000名の見学者を工場に受入れています。

「単に利用するだけでなく、リサイクルを一緒に考えて欲しい」そんな思いでリスナーの皆さんにお話をしました。



番組ではPETボトルリサイクルを取巻く環境の変化をお伝えしてきました。中国の資源としての強い需要が使用済みPETボトルの価格を押し上げ、日本からも大量に輸出されてきた事実もそのひとつ。昨年末に世界経済が悪化したことで需要が一気に縮小、輸出が停止し、国内に使用済みPETボトルがゴミとしてあふれるという事態が起きました。

リサイクルの命題は「資源として活用する」「ゴミとして適正に処理する」という二つのことであると考えています。経済の原則のみに任せ「儲かるから売る」という考え方でPETボトルリサイクルを進めた場合、今回のように使用済みPETボトルの価値が下がり行き場が無くなってしまえば、あっという間にPETボトルがゴミの山になってしまいます。



左から文化放送竹内靖夫アナ・ジャパンテック小林部長・石川真紀アナ

今年国内で循環するPETボトルの量は昨年 비해増える見込みにあるそうです。

『リスナーの皆さんにも使用済みPETボトルを「分別する」「中を水でサッと洗う」という身近なアクションから「自分とモノ」との付き合い方を考え直し、分別することを「身近なエコへの取組み」の第一歩として最適なリサイクルについて考えて欲しい。』とお願いをしました。